

がんの親を持つ子どものためのサポートプログラム 「お父さん/お母さんの病気や治療について知ろう」 2016年度 活動報告 (第3回:8/24、第4回:3/30)

2015年度に、当院で初めてのサポートプログラムが始まりました。
2016年度は、のべ8家族12人の子どもたち(5歳~12歳)が参加してくれました。

まず初めに、作業療法士による親子でふれあいストレッチを行い、少し緊張がほぐれ、場が和みました。それから「がんって何?どうやって治すの?」の子ども向けのミニレクチャー、実際に聴診器や血圧計、点滴などに触れる医療体験をしました。そのあとは、子どもたちは、放射線治療室や外来化学療法室などへ病院ツアーに出かけました。子どもたちは、真剣な表情でメモを取ったり、大きな機械に驚いたり、病院長に積極的に質問したり、それぞれ楽しみながら病気や治療について学び、考えている様子でした。その間お父さんやお母さんたちは座談会へ。病気のことを話してからの子どもの家庭での様子や病気の治療に関する不安などについて話しました。最後に、親子別々でお互いに向けたメッセージカードを作り、プレゼント交換をしました。



<参加者の声(アンケートより)>

お母さんがガンになってさみしかったけど、このイベントで気持ちもちが楽になりました(10歳)

いつもは入れない所に入れたり院長先生に会えて、うれしかった(11歳)

どのように治療するかどんな治療法があるかよく分かった(12歳)

笑顔で前向きに支え合って頑張ることの再確認ができました。

楽しい時間だったので、病気・治療に対して明るいイメージがもてたと思います。いつも治療の日、心配そうに頑張ってるねとってくれたので、不安が少しでも払拭できたのでは。

子どもに何をどう説明したら良いのかわからなかったけれど、上手に説明して頂けて助かりました。

色々な話が聞けてとても良かったです。皆さんも同じ悩みがあり自分だけじゃないなと思いました。